

新「能代市」の誕生を促して！

〜一体感づくりのために〜

第3回

世界的な品質!!

ニツ井産ゼオライト

ニツ井町には特産のゼオライトがあります。ゼオライトは天然の多孔質な鉱物で、吸収力や通気性に優れています。ニツ井産は、世界的に見ても最高級の品質といわれています。土壌改良、水質浄化、脱臭、畜産、建築などその用途は広く、今後の発展が期待されます。



迫力あるゼオライトの採掘現場(ニツ井町切石地内)
「サン・ゼオライト工業株式会社」

ゼオライトの販売に携わる(有)北日本ゼオライト販売・代表の菊池康紀さんにお話を伺いました。

また、サン・ゼオライト工業株式会社の採掘現場を訪れ、迫力ある現場を間近で体験してきました。

わたしは、主に農薬用として販売しています。ニツ井産のゼオライトは、肥料吸着力に優れ、有機堆肥と混ぜることで相乗効果が期待されます。稲の育苗土に混ぜると丈夫な苗が育ち、特に育苗用として勧められています。ほ場に散布すると、肥料効率促進と流出抑制になり、環境に優しい農業になります。



丈夫に育っています！
ゼオライトを使用している菊池さんの水田



農業用分野だけでも多様な用途があり、ゼオライトを活用した農業の展開を研究中です。

そのためには、農機具の改良も必要となるので、能代の木材産業で培った機械技術を応用できればいいと考えています。

ゼオライトの販売を通して、能代の方々は大変お世話になっているので、今後も交流を続けていきたいと思っています。

のーろ道遙

歴史と民俗のあいだ

77

カ士(-) 「五扇山富蔵」

仁井田・倫勝寺境内にある武田家の墓地に「故五扇山富蔵之墓」があり、その碑面に「東京大相撲協会カ士」とあります。本名武田富蔵といい、元市議会議員武田正高氏の叔父にあたるそうです。東能代には武田姓が多く、鉄道に職を持つ人が大部分でした。富蔵も十七歳の時、鉄道職員となりましたが、五尺八寸という体格でした。当時能代出身で大関の地位にいた大蛇湯一行が巡業してきたとき、無理矢理に入門したそうです。その後序の口から序二段へと進みました。錦島部屋で将来を嘱望されていましたが、不幸にも脚気を患い、二十一歳で亡くなりました。大正五年五月の秋田魁新報にその活躍が紹介されていますが、翌年一月二十一日の紙面にはその死が報じられています。

その年の大蛇湯一行の巡業のときには、土俵際に供養塚が造られ、餅撒きをして五扇山の供養相撲が行われました。

五扇山という四股名は、後に代議士になる信太儀右衛門と俳人島田五空の尽力で、佐竹家の家紋である五本骨の扇に因んだ名を使用することを認めてもらって命名されたようです。

現在の相撲界には秋田県出身カ士が少ないので寂しい限りですが、かつては力試しという風習が青年層にあり、神社の祭典では相撲大会も催されていました。力試しは一人前の人間に成長した証でもあり、大相撲カ士を夢見て入門する青年も少なくありませんでした。青年が自分を鼓舞する心意気を感じます。

(古内)

